

重点3 英語活動の推進

小学校における英語活動

ねらい

- ・ 小学校段階から世界に目を向け、国際感覚を身につけた豊かな心を持つ子どもを育成するために、国際理解教育の一環として、英語に親しむことを重視した活動を行っています。
- ・ 「聞く」「話す」ことを中心とした、体験的な英語活動をとおして、英語を使って表現しようとする意欲やコミュニケーション能力を育てています。

現状と課題

○ 外国語活動でみられる子どもたちの様子

・ 「言語や文化について理解」「コミュニケーションへの積極性」「音声や表現に慣れ親しむ」の三つのねらいについて、十分、概ね十分を合わせると91%と高い割合を示しています。

・ これまでの外国語活動の積み上げもあり自信を持って発言したり、授業後に英語を使って指導者や友だちに話しかけたりする子どもの姿が報告されています。

・ 外国語活動を楽しみにしている子どもも多く、難しい言葉にも挑戦するなど英語活動のねらいを概ね達成できていると考えられます。

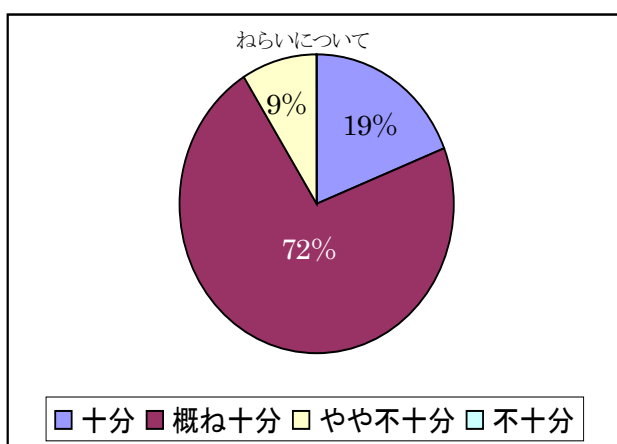
・ 表情豊かにジェスチャーを交えて話したり、評価したりすることやメリハリのあるテンポの良い指導が好評を得ています。

・ 『英語ノート』については、「系統的な指導に有効である。」「英語ノートのアクティビティを自分なりにアレンジし子どもにあった活動ができた。」など肯定的な意見が寄せられています。

・ 塾で英語を習っている子どもとそうでない子どもとの差が出ることによって、子どもの意欲が損なわれることがないように活動を工夫する必要があります。

・ 単語の発音には慣れてきましたが、コミュニケーション活動に積極的に取り組む素地が作られるような授業をさらに進めていく必要があります。

外国語活動の成果



今後の方向性

- 新しい学習指導要領の施行により始まる小学5、6年生での外国語活動（年間35時間）について、教育委員会主催の研修会の実施および校内研修推進の支援などにより、完全実施時にスムーズなスタートが切れるよう準備を進めていきます。
- 平成22年度の移行期間においては、段階的に活動時間を増やし、指導の形態は、①「担任単独による指導」と、②「担任（T1）と英語指導員（T2）によるチームティーチング」を組み合わせで行います。①について、指導教材の提供や指導方法の研修会を行います。また、授業にテーマを設定する課題解決型英語活動「プロジェクト型外国語活動」を導入していきます。

英語活動に自信を持って取り組み、積極的にコミュニケーションを図ろうとする子どもを増やすため、活動の評価を指導に生かし、効果的な指導を行うための研究を進めます。

## 主な取組状況

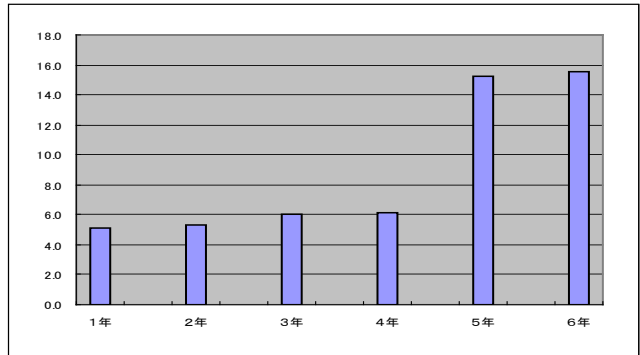
### ○ 英語指導員の派遣と活用

- ・ 市内すべての小学校において、1年生から4年生で5時間程度、5、6年生で15時間程度の英語活動が行えるよう、英語指導員を派遣しています

#### 四日市市在籍の英語指導員（YEF）11名 派遣業者からの指導員（HEF）7名

- ・ 各学校では、英語指導員を計画的に運用し、1～4年生では学校裁量の時間、5・6年生では外国語活動の時間等に英語活動を行っています。
- ・ 一緒に給食を食べたり、特別活動や休み時間とともに活動したりするなど、英語活動の時間以外にも、子どもと英語指導員がかかわる機会を設けています。

平成21年度外国語活動時間(年間1学級あたり)



### ○ 四日市市小学校外国語（英語）活動カリキュラム（以下：カリキュラム）の活用

四日市市では、英語活動のねらいに沿った内容のカリキュラムを独自に作成し、活用しています。

#### 本カリキュラムの流れ

**ウォームアップと復習** ⇒ **新しい単語や文型を知る** ⇒

**ゲームでの活用等により単語や文型を定着** ⇒ **本時の学習の振り返り**

- ・ 楽しみながらコミュニケーション活動を体験できるよう構成
- ・ 日本語・英語で記述し、担任と英語指導員が活動内容について共通理解を図ることができるよう構成

また、文部科学省が外国語活動の教材として配布する「英語ノート」と、四日市市の「カリキュラム」の関連について、四日市市外国語活動カリキュラム検討委員会で検討したものを、各学校に示しました。2つの教材を効果的に活用して外国語活動を進めています。



### ○ 研修会の実施

新学習指導要領の施行にともなってスタートする小学校外国語活動のねらいや今後の予定、実際の活動について学ぶ研修会を実施しました。担任が単独で英語活動をすすめていくために、電子黒板やインタラクティブユニット(電子情報ボード)を活用した実際の活動を体験する研修会を2回、四日市市の「カリキュラム」を扱った活動を体験する研修会を1回、英語活動の進め方についての研修会を1回実施し、全小学校から各回1名以上の参加を得て、英語ノートやカリキュラム内容および具体的なチームティーチングの周知を図りました。参加者からは「英語ノートやインタラクティブユニットの扱い方がわかってきた。」「電子教材の音声は早いので、担任もゆっくりと繰り返して発音練習していきたい」「子ども同士が関わりあう場面を設定したり、ペアやグループ活動を取り入れたりすることが大切だとわかった。」といった感想が寄せられ、今後の校内研修や外国語活動の推進に向け、礎を築くことができました。

